

## 学習者から雇用に関する 問い合わせ・相談が 増えています

「仕事場が閉鎖され、国へ帰ることになりました」「日本語をあまり使用しない職場なのに日本語が上手でないと不採用に」「就職活動の場合、大きい会社と小さい会社どちらが良いですか」「リストラになりました。仕事を紹介してください」等々、この半年ほど地域差、時間差はありました。仕事を紹介します。T N V N では在住外国人の雇用状況について新宿外国人雇用支援・指導センター等を訪ねました。教室での情報提供等、参考にしてくださいと考へます。

### 不況の日本経済 厳しい雇用状況

日本経済の5月期の有効求人倍率は0.44倍で、一つの仕事を2人で、正社員は0.24倍で4人が競う状況にあります。

新宿外国人雇用支援・指導センターでは、昨年(2008年)9月のリーマンショック前後から新規求職者が急増しました。求職者は104カ国1,300人で、平成19年の716人の1.8倍(約2倍)です。(平成20年は836人)内訳は留学生・就学生30%、日本人配偶者20%、永住者16%、その他34%で、男女比率は、男性6:女性4です。求職者の希望職種は、「なんでも良い」が多い。現状の職種は飲食店45%(留学・就学生) 労務提供・製造含40%(家族滞在・その他)です。

仕事場ではこれまで在住外国人が就労していた分野に日本人が雇用される状況があります。(その分、在住外国人の求人が減少している。)

企業・事業主は全体に「読み・書き」リスクの少ない日本人を雇用する傾向があります。(企業もリーマンショックまでは多少の余裕があり、外国人等をサポートする人を置いていたが、現在は全く余裕が無い状態です。)

### 読み・書きから コミュニケーションへ

雇用にあたって、「日本での生活となるので日本語の習得は必須であり、日本人と同じように読み・書き・コミュニケーション」が必要となります。在住外国人を企業や事業主に紹介する目安は、電話対応やコミュニケーションを取れるかどうかを基準

としています。アルバイトでも各々の分野でコミュニケーション能力が問われます。

日本語能力として、例えば日本語検定1級合格者であれば最善ですが...

### 学習者の声に応えて

「当センターでも職業案内の通訳は若干配置しているものの、語学(日本語)・職業訓練までは出来る状況にありません。」

以上がコメントですが、在住外国人の雇用をめぐる厳しさは大変なものがあります。しかしそうしたなかでも「コンビニでアルバイトを始めました。大変です。でも時間を取って日本語の勉強に来ます。」「バイト先の奥さんが赤ちゃんを産みました。人がいないのでしばらく教室へ行けません。でもまた行きます。覚えていてください」等と日本語学習への意欲を絶やさない多くの学習者がいます。在住外国人の雇用が少しでも安定するように私たち日本語ボランティアは着実に役割を果たしていきたいと考えます。

### ここで聞きました

新宿外国人雇用支援・指導センター  
(新宿ハローワーク)  
墨田ハローワーク  
株式会社インゲート  
(求人情報・人材派遣)



(岩佐 幹彦)

# 「おしゃべり」活動に必要な三つの要素

## —養成講座の現場から—

寄稿

協力会員 吉川 正則

千駄ヶ谷日本語教育研究所 養成部門部長講師



「おしゃべり」の中で日本語を学ぶという活動がある。文型や語彙を中心に日本語を教えるという活動ではなく、あるトピックで「おしゃべり」を楽しみ、そのプロセスの中で必要な表現などを身につけていく活動である。では、この「おしゃべり」という交流活動を参加者にとってより有意義なものにするには、どのような要素が必要なのだろうか。

この「おしゃべり」活動を養成講座で体験学習としてやってみると、話が続かない、話をする人と聞く人または質問する人と答える人が固定的である、人が話している途中で話し始める、という三つのことがよく起こる。誰かが話しても聞いている人は頷くだけで、会話が途切れてしまう。相手または相手の発話に興味や関心があれば、質問も出てくると思われる。しかし、質問もなしに一つの「おしゃべり」は完結してしまう( )。また、「おしゃべり」が一方向で、独演会になったり尋問になったりしており、双方向で情報を交換することがない( )。さらに、人の発話を最後までしっかりと聞かないで話し始める。人の話をちゃんと聞くことを傾聴というが、これがなかなかできない( )。このような状況では参加者のみんなが「おしゃべり」を楽しむことは難しいだろう。

「おしゃべり」を本当に楽しむためには、～の状況で問題となった「興味・関心」、「双方向」、「傾聴」という要素の改善が必要になってくる。

相手または相手の発話に「興味・関心」が持てるかどうか。もし持てなければ質問も浮かばない。質問をしても気持ちのこもらない形式的なものとなる。質問がなかったり形式的な質問であったりすれば、「おしゃべり」は発展しない。ただ、「興味・関心」は“持て”と言われても持てるものでもない。「興

味・関心」という要素は、人が好きか、人と関わることが好きかという、その人の資質から生まれてくるものなのであろう。

自分ばかりが話したり、自分のことは語らず相手に質問ばかりしていたら、単なる自己満足の「おしゃべり」になる。「おしゃべり」は一方向ではなく、「双方向」で情報のやりとりを行うことで、お互いに学び合い、お互いを知り合うことができる。これが「おしゃべり」の楽しみではなかろうか。相手のことを考えて自分自身の発話を調整していくという気配りが、「双方向」という要素には必要であると思う。

自分が話している最中に誰かに遮られ話されたら、話し終わるまで待てないのかと気分を悪くする。ただ、人の話を最後までしっかりと聞くということとはなかなか難しい。なぜだろうか。「傾聴」とは頭を空にして相手の発話内容の理解に集中することであるが、相手が話している間、頭が勝手に働き、相手の発言内容を評価したり次に話す内容を考えたりしてしまうからだ。しかし、「傾聴」ができれば「おしゃべり」は発展する。話し手はちゃんと聞いてくれる人にはいろいろな情報を提供するものである。

考えてみれば「興味・関心」「双方向」「傾聴」という要素は、交流活動の場だけではなく、普段のコミュニケーションにも求められる要素である。専門的な知識・能力ではない。家庭や職場の会話はどうか、友人との会話はどうか、普段の自身を振り返り、足りない要素を改善できたなら、より楽しく有意義な「おしゃべり」活動ができるのではなかろうか。

# 日本人の信仰

日本文化体験交流塾 理事長

米原 亮三

富士吉田市の富士浅間神社の参道の鳥居(写真)の前に立つと、向こう側には、重要文化財の本殿などがある。しかし、古来、日本人が信仰の対象としてきたのは、これらの神殿ではなく、神殿の奥の富士山そのものである。男体山や大山、筑波山など多くの山が信仰の対象となっている。

また、浅間神社の本殿の前には、樹齢千年の太郎杉と夫婦榎があり、しめ縄がつけられている。山中の巨石を祀り、これに参拝することも多い。私たちの祖先は、こうした山々や樹木、巨石などのほか、太陽や雲、雷、風、海、川、動物など、自然界の多くのものをあるときは恐れ、信仰の対象としてきた。

現在、神社仏閣の庭園には、石や樹木、池や川などが配置されているが、こうしたものは、本来、山地まで出向いて拜んでいた信仰対象を、小さくして作ることから始まったといわれる。

こうした多神教的な宗教観は、日本だけでなく、世界の多くの国々にも存在する。ギリシャでは、様々な神々が喜怒哀楽の感情を持ち、神話となっている。

神田明神の禰宜<sup>ねぎ</sup>である清水祥彦氏によれば、宗教観と気候風土は、深い関係がある。豊かな森があり、川や海から食べ物を採集できた古代社

会では、自然の恵みを感謝して、多神教的な宗教観が支配することが多い。

これに対し、砂漠化された風土のなかで、キリスト教やイスラム教などの唯一神が生まれた。その後、唯一神の宗教集団は、ローマなど巨大な国家統治の原理と結びつき、世界的な宗教として成長した。

日本では、多神教的な信仰心を基本に神道が生まれ、仏教や儒教など、大陸から伝わる新しい宗教を柔軟に受け入れてきた。お釈迦様や阿弥陀様や観音様も、日本の新しい神として付け加わってきた。明治政府の神仏分離政策まで、お寺の敷地内に稲荷神社が

あるなど、神社と仏閣が混在することは、極めて一般的であった。

多神教には、聖書のような経典がなく、分かりにくい面があるが、プラスの側面もある。一神教が支配するヨーロッパや中東の国々では、宗教上の差異を理由の一つとして、様々な戦争が行われてきた。日本では、異なる宗教であっても、容易に受け入れるだけに、宗教を理由とする戦争は少ない。

日本人は、亡くなった先祖を仏として、神として敬ってきた。父や母、祖父、祖母を大切にすることは、素晴らしいと思う。食事をする際にも、食べ物となる命に感謝し、「いただきます」と言う。築地の波除神社には、海老塚、あんこう塚、玉子塚などがあり、こうした命あるもの、生活を支えるもの全てに感謝することこそ、日本人の信仰である。日本人が先祖から伝えられた信仰は誇りとすべきものと、私は考えている。



富士浅間神社

## 相談活動報告(2009年3月13日～6月6日)

外国人とともに生きる大田・市民ネットワーク 相談担当 鈴木 昭彦

### ■中国人女性Aさん

**相談**：友人に貸付金があるが、彼女が逮捕され有罪判決が出されている。どのようにしたら貸付金を回収できるか。

**対応**：幸い、相談者は友人の口座を知っているので、また、いままでの携帯電話の交信記録があるので、なんとか法的手段で回収可能と思われるので、弁護士事務所と相談を勧める。

### ■フィリピン人女性Bさん

**相談**：専門学校に昨年入学したが、資格をとっても日本で就労できないことが判明し、自分の生活設計が狂ってしまった。学校側の責任を追及したい。

**対応**：学校側はこれについて説明責

任を果たしていないと思われるし、また、半年間の通学で学んだものがあつたにしろ、それが社会で有効とは思えないので、支払った費用のうち、返済された金額を除いて、返還を求めることができる可能性が高い(生活消費者センター相談員)と思われるので、弁護士等と相談のうえ、支払い請求の手段をとるようアドバイスした。

### ■バングラデシュ人男性Cさん

**相談**：日本人妻と調停離婚したが、子どもとの面接交渉権があまりにも制限されている。また、子どもの近くにいたいがどうしたらいいか。

**対応**：本人の意思を確認して即時抗

告申し立ての手続きを取った。

### ■タイ人女性Dさん

**相談**：公立小学校に通う子どもが同級生や、上級生にいじめられ、めがねを壊わされたり衣服を汚されたりしている。子どもに神経症状も出ている。担任の教師がなかなか動いてくれない。

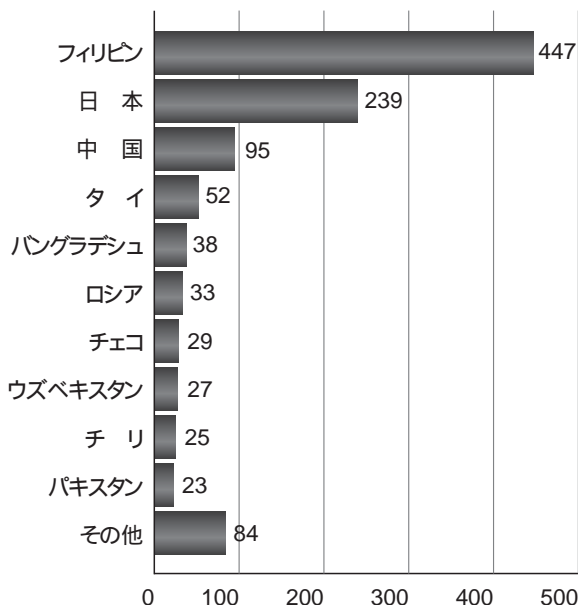
**対応**：両親が通学を強要するようになると、子どもはますます居場所あるいは逃げ場所がなくなってしまう。学校や教育委員会に働きかけることは一緒にできるので、まず子どもの様子をより注意深く見守ること、何も強制しないことから始めてはどうか、とアドバイスした。

### 相談活動 2008年度 のまとめ

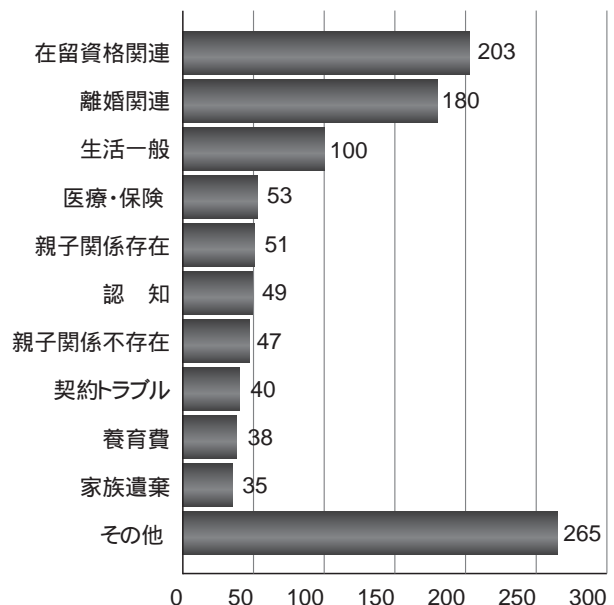
相談内容や傾向は例年と同じように在留資格や離婚関連が多く、アジアの女性、とくにフィリピン女性からの相談が群を抜いている。認知や親子関係存在、不存在をめぐる相談も多かった。相談の概要は次の通り。

相談件数 1,092件

#### 相談出身地



#### 相談分野



# ひとつの方法

武蔵野市国際交流協会 宮崎 妙子



地域の日本語教室はマンツーマンあるいは少人数のグループ活動が多く、教室に集まる全員（外国人も日本人も）がいっしょになにかをする機会はあまりないようです。ときには、全員でアクティビティを楽しむのはいかがでしょうか？全員が入れる部屋があり、部屋の中を全員が動き回れる空間さえあれば、いつでもできます。準備は必要ありません。

ご紹介するのは開発教育で使われる参加型学習の手法のひとつ、「部屋の四隅」の日本語教室への応用で、「好きバージョン」と筆者が名づけているものです。部屋には四隅がありますが、約束ごととして、ひとつの隅を「とても（好き）」、次を「まあまあ（好き）」、次の隅を「あまり（好きじゃない）」、最後の隅を「ぜんぜん（好きじゃない）」と決めておきます。では、手順をご説明しましょう。

部屋に全員が集まります。

ひとりが質問者になり、「が好きですか？」と問いかけます。

最初はお手本として日本人が質問者になるのがいいでしょう。

質問に対して、全員が自分の思う隅に移動します。

質問の内容により、どこかの隅に人が偏ったり、四隅にほぼ均等に分散されたりするのが面白いところで

す。参加者の動きがはっきり形で見えるところがこのアクティビティの楽しさです。

質問者は各隅に移動した人たち数人に、「どうして（ここにいますか）？」とその理由を尋ねます。

尋ねられた人は、理由を述べます。どんな返答でも大丈夫です。全員で耳を澄まして聞きましょう。理由を聞くのも楽しい時間です。返答に大笑いすることも、思わぬ理由に深く頷いたり、感心させられることもあります。参加者の人柄や、知っていたもりの参加者の新しい面を発見することもしばしばで、人間理解につながり、教室の人間関係を深めていくように思います。次の質問者が新たに「は好きですか」と問いかけ、からを繰り返します。

最初の2問ほどを日本人がし、全体が要領をつかめたと思われるころ、「だれかやってみませんか」と全体に質問者を募集します。必ず、手をあげてくれる人がいると思います。参加者の豊かな個性に触れること、請け合いです。

適当なところで切り上げましょう。そして、通常のマンツーマン、あるいはグループ活動に戻り「これをしてどうだった？」と「部屋の四隅」の経験を話し合いの材料にしてみてください。

このアクティビティのいいところは、簡単な日本語でできることです。「好きですか？」「とても」「まあまあ」「あまり」「ぜんぜん」がわかっている誰でも参加し、楽しめます。もし、要領の得ない人がいればちょっとそばで教えてあげるだけで掴めると思います。また、多くの場合、教室で受身の立場にいる外国人が主体的に場をとりしきり、日本人をも動かすことができる点で、両者の対等な人間関係作りに役立つと思います。

先日は、外国籍の方から「日本のドラマは好きですか？」との質問がだされましたが、驚いたことにテレビのドラマをよく見ているのは外国籍の人たちで、私たち日本人はほとんど知りませんでした。よく出る質問は「納豆が好きですか？」です。この質問に対しても、意外な反応があります。

みんなで楽しみながら、「人」を発見し、「人」に興味を覚え、「人」を尊重し、教室のいい人間関係につながる優れたアクティビティだと思います。ぜひ、お試しください。

設立当初の理念を忘れぬように心がけています

# すみだにほんごボランティア21

代表 松本祥子(墨田区)

当団体は区が開催した「日本語ボランティア養成講座」の受講修了者が相互理解、相互学習をして、互いに向上することを目的として1993年に設立されました。

活動場所はすみだボランティアセンターの一室です。教室は月曜漢字クラス、水曜午前クラス、水曜夜クラスに分かれています。

漢字クラスは当初、漢字圏以外の学習者のために立ち上げられましたが現在は漢字圏の人も来ています。水曜午前クラスは学習終了後、30分間はティータイムにしています。スタッフや他の学習

者との交流や情報交換に役立っています。水曜夜クラスは社会人男性が多いのが特色といえるでしょう。最近日本語の堪能な学習者の一人にスタッフと学習者との間に立ってもらい、要望や相談事の橋渡しをしてもらっています。双方になかなか好評です。

これら三クラスはそれぞれが独立していますが、必要に応じて連絡し合っています。

学習者とスタッフ全員の交流と社会見学のために東京近県へフィールドワークをしています。特に学習者はその時を楽しみにして家族や友人を誘って大勢参加します。

当団体が未長く、よりよい活動ができるように、会場となっているすみだボラ



ンティアセンターが主催する行事には積極的に協力しています。また活動資金調達のためにバザーもします。

スタッフは老若男女、幅広い年齢層です。学習の手伝いをする人が多いのですが、メールでの問い合わせの対応や関係する区の地域活動推進事業等に当団体として携わっている人もいます。各自が出来る事を自発的に行っています。

ともすれば一方的な学習の場になる事を戒めるために、設立当初の理念を忘れぬように心がけているところです。

## 会員団体紹介

# Nice to Meet You

JR飯田橋駅東口から歩いて5分足らず、大久保通り沿いローソンとパスタの店「SPIGA(スピガ)」の間の細い路地をちょっと入ったところに「アスク出版」があります。

昨年1月に、(株)アスクから出版事業部が独立し、(株)アスク出版となりました。日本語学習教材だけでも75点と、出版点数も増え、分野も試験対策からビジネス日本語、ボランティア向け教材と徐々に幅を広げてまいりました。中でも日本語ボランティアの現場で大好評をいただいているのが『にほんご宝船』。学習者と支援者が生活に必要な情報や日々感じていることなどをおしゃべりしながら一緒にページを作っていく今までにないタイプの活動集です。アイデアに困った

## nice to meet you

にほんご学習者向けのにほんご学習教材を作っている出版社です!

# (株)アスク出版

編集部日本語チーム(飯田橋)

ときは、支援者向け指導書を参考にしてください。必ずヒントが見つかるはずですよ。最近、その子ども版『こどもにほんご宝船』が発売となりました。子どもたちは特に、型にはめた教え方はできません。子どもたちの「話したい・ききたい」を引き出し、周囲とつながるきっかけ作りにお役立ていただければと思って

います。その他にも、やさしいレベルからたくさん読む『レベル別日本語多読ライブラリー』、漢字を覚えるコツがわかる『Build Up

Your KANJI SENSE』等々があります。

現在、日本語教材の制作に携わっている乙女3名、少しでも皆さまのお役に立つ教材を提供できるよう、新しい教材の制作に日々励んでおります。日本語教師のための日本語教育情報サイト「にほんごアスク.jp」<http://www.nihongo-ask.jp>

には、私たちからのお知らせやセミナーレポート等を掲載していますので、こちらまでぜひお立ち寄りください。

今後ともご指導、お力添えをよろしくお願いたします。

『こどもにほんご宝船』  
「こどもにほんご宝船賞」にご応募ください!  
詳しくは「にほんごアスク.jp」へ  
<http://www.nihongo-ask.jp>



学習者の声

自分の能力を日本社会で活かしていきたい！

加藤イリーナ/ロシア 清瀬国際交流会日本語教室（清瀬市）

それを使って病院に行くことができます。

来日して1年くらい経ってから、清瀬のボランティアセンターに登録し、幼児の世話のボランティアをしました。子どもや若いおかあさんといっぱい話をしたので、日本語をたくさん覚えました。

今年からは非常勤で清瀬市の教育委員会の日本語指導員になり、最近転居してきたロシア人の小学生の日本語指導をしています。これからも自分の能力を社会に活かしていきたいと思います。



4年前に来日しました。最初は日本人の顔がみんな同じに見えました。清瀬の街を歩いて、建物の形も道路もみんな同じに見えて、家の周りで何度も道に迷いました。日本語も全然わからず苦労しました。初めは友だちがいなくて、毎日ロシアに電話していたので電話代が月に3万円もかかってしまいました。

日本語教室に参加して、そこでいろいろな国の人と友だちになりました。ボランティアの先生には日本料理も教えてもらい、夫に作ってあげることができて嬉しかったです。

病院がいちばん困りました。最初に問診表を書かなければならないのですが、日本語で書いてあるので理解できませんでした。また、医師の先生に症状を伝えることができず、しばらくは夫に付き添ってもらい通院しました。夫がインターネットで「多言語問診票」を見つけてくれたので、今では

ボランティアの声

多文化社会の最前線である地域の日本語教室の役割として

代表 石川秀樹 / 清瀬国際交流会日本語教室（清瀬市）

市民センターの畳の部屋で十数名で始めた日本語教室も16年目を迎え、いまでは4クラスで学習者・ボランティア合わせて120名以上になりました。

学習者のニーズも多様化してきました。雇用の悪化で、良い仕事に就くために日本語能力を向上させたいという学習者も増えています。また、昨年子どもクラスを開設してから、外国につながる子どもたちの教育が大きな課題であることもわかってきました。

「日本語の教え方」の前に「なぜ日本語を必要としているのか」に着目しないと学習者の課題は見えてきません。

清瀬市のような外国人散在地域の問題として、外国人に対する日本人社会の無関心があります。地域の日本語教室は多文化社会の最前線です。最前線で活動する者として課題を社会に投げかけることも私たちの役割だと思っています。

学習者の生活相談に対しては、“無視せず抱え込まず”に役所や関係機関につなげる役割を意識しています。社会福祉協議会とも連携し、幼児を抱えた学習者に

は社協の「子ども見守りボランティア」の協力を得て別室での保育が可能になりました。

昨年企画した講座『日本語学習者を支える地域内ネットワークづくり』が、文化庁の地域日本語教育支援事業に採択されました。講座の最終回では外国籍住民と支援団体、民生委員や学校の日本語指導員、それから役所の企画課長と教育委員会の指導主事といった関係者が一堂に揃って多文化共生について語り合いました。これはうちの街にとって初めての出来事でした。おかげで市の基本計画に多文化共生の推進が書き加えられ、外国人住民の抱える課題は、地域社会全体の課題であることを認識してもらうことができました。





### ●活動内容や連絡先の変更がありましたらお知らせ下さい

新年度を迎えますと代表者や活動の内容を変更される団体・教室があります。その際は是非TNVN事務局にご一報をお願いします。「ボランティア日本語教室ガイド2008東京」を発行し、1年が経ちました。その間、活動内容や連絡先の変更、新たに「ガイド」

への掲載希望のご依頼がきています。これらを折り込んだ新しい冊子の発行は現時点で費用・作業の関係で出来ません。よって、6月に訂正・追補版を作成し、各団体にお送りしました。ありがとうございました。

### ■「ボランティア日本語教室ガイド2008東京」をご活用下さい

新規団体・内容変更のあった団体を掲載した追補版を作りました。「ガイド」をご希望の方は、頒布代金(1部700円)と送料を郵便局でお払込み下さい。口座番号:00100-1-719259 加入者名 東京日本語ボランティア・ネットワーク なお、東京ボランティア・市民活動センター(TEL:03-3235-1171)でもご購入出来ます。

冊子小包料金:1部:290円、  
2部・3部:340円、4部・5部:450円

### ■TNVNへの入会をお待ちしています

詳細はTNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円切手同封)

### ■ニュースレターに掲載する記事をお待ちしています

ニュースレターは3ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。掲載記事についてのご意見・ご希望も歓迎します。TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。



## ●Column

### ❖浴衣には下駄、和服には草履

花火、盆踊り、祭り等日本の夏は日本語学習の題材が豊富です。今年の夏も野外学習として、花火大会の鑑賞にでかけました。駅で集合、グループのなかに女性の浴衣姿がお2人。教室での学習者、ボランティアのマチングペアが浴衣姿でもペアです。

私が花火大会の会場まで道案内をします。私

は特段に早足ではありませんが途中、浴衣姿の2人と離れ離れになってしまいました。あわや迷子に、慌てて迎えに戻ります。浴衣の2人の足下は下駄です。私の足下は歩き易い靴です。そうです。離れ離れになったのは早足、遅足の違いではなく、履物の違いによるものでした。道案内内人の私は普段下駄を履いての生活をしていないので、下駄で歩くスピードや感覚を失念していました。

これでは野外学習になりません。改めて浴衣には下駄、和服には草履を認識しました。お粗末さまでした。

(い)

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時:毎週金曜日

第1、第3 金曜日/午後2時~4時  
第2、第4 金曜日/午後2時~6時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 - 出口B2b)飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

TEL:03-3235-1171

(呼出:金曜日活動時間帯のみ)

FAX:03-3235-0050

E-mail:webadmin@tnvn.jp

URL:http://www.tnvn.jp/

郵便局払込

口座番号:00100-1-719259

加入者名:東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数(2009年8月28日現在)

正会員:84団体 協力会員:32名

賛助会員:5団体

●編集/岩佐 幹彦、大木 千冬、

岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利

床呂 英一、林川 玲子、福井 芳野

●レイアウト/鶴田 環恵

